

# 石神中学校だより12号

発行日：令和2年 10月15日

2020重点目標〈自ら学び、夢の実現のためにやり抜く生徒〉 文責：校長 佐藤恭司

## 1学年体験学習

令和2年10月8日（木）会場：仙台市



現地について簡単な施設についての説明したのち、すぐに調理活動に入りました。生徒たちは、火おこしや具材を入れる順番に悪戦苦闘しながらも、班員みんなで協力し合って「芋煮汁（宮城味）」を調理しました。『美味しい！』『うんまい！』『あったまる～！』と、フーフーと里芋を冷ましなが、満面の笑顔で食べていました。ほとんどの班が芋煮汁を完食していました。本当においしかった証拠です。そして、後片付けの活動では、炭火の始末や鍋の外側について「すす」も手を真っ黒にしなが、水洗いしていました。とても感心させられた一コマでした。『協力・安全・気配りの三つ（密）を意識して活動しよう。』の体験学習スローガンを立派に果たしてくれた生徒たちでした。〈1学年主任 嶋野真一〉

## 2学年体験学習

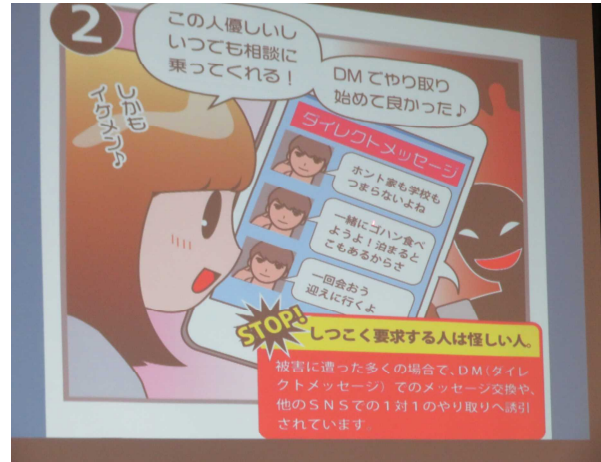
令和2年10月8日（木）会場：霊山子どもの村



今年の体験学習は、自然の中で郷土の歴史や文化を体験すること、集団行動を通して友情を深めることを目的として、芋煮会と班別活動を行う予定でした。体験学習に向けて、1週間前から班別活動の計画を立てて準備をしてきましたが、当日は朝から雨が降り、計画通り活動することができませんでした。しかし、昼食の芋煮会では、生徒達は雨にも負けず、男女仲良く協力し、楽しく活動する姿が見られました。かまど係の男子はうちわを使って火加減をうまく調節し、調理担当の女子は、レシピを確認しながら、丁寧に芋煮汁を完成させました。どの班も、自分たちで作った芋煮汁を完食し、苦労した分、達成感が得られたようです。後片付けも指示をしなくても、自分たちで手際よく行う姿が見られました。悪天候という状況でも、楽しく活動できる素直な生徒たちの成長を感じることができました。〈2学年主任 佐藤朝恵〉

**肌寒い生憎の雨降りでしたが、美味しく調理した芋煮で『体も心も温まった』活動になりました！**

# “情報モラル教室”が始まりました



インターネットやスマートフォンなど、多種多様な情報が簡単に入手できたり、発信できたりする世の中で、便利な生活を送れる反面、誤った使い方により、いじめや犯罪に巻き込まれるケースが後を絶ちません。そこで、本校では、生徒たちに正しい情報を見分ける力や適切に情報を発信する力を身に付けさせるため、南相馬警察署の署員が講師となり、3回にわたり学年ごとの「情報モラル教室」を計画しました。今回、県内では初めてとなる南相馬警察署作成の「スマホ検定」の試験も行われ、生徒らは真剣に検定にチャレンジをしていました。生徒らは、警察署員の具体的な講話を聞き、メモする生徒など関心の高さが見られる「情報モラル教室」となっています。1回目は、10月12日(月)第1学年、2回目は、10月13日(火)第2学年が実施しました。3回目は、10月20日(火)第3学年で行われます。

講師は、南相馬警察署生活安全課長 佐藤靖高様、生活安全課主任少年補導員 今野桂子様、生活安全課第二係主任 熊田泰弘様です。

## 彫刻（ブロンズ像）を設置しました！⑩

5回目は⑩ 古賀忠雄氏の作品と略歴です。(Wikipedia 参照)

⑩古賀 忠雄(こが ただお、1903年12月6日 - 1979年6月10日)は、日本の美術家。1903年(明治36年)、佐賀市水ヶ江に生まれる。佐賀県師範学校附属小学校(現佐賀大学文化教育学部附属小学校)高等科を卒業後、県立有田工業学校(現県立有田工業高等学校)絵画科へ入学。同校在学中に日本画家・腹巻丹丘よりその手腕を認められ、東京美術学校(現東京芸術大学)彫刻科塑像部本科へ入学。1929年に「仏心」で第10回帝展入選。1939年に「岬の男」で第3回文展(現日展)特選を受賞。1943年4月、「建つ大東亜」で帝国芸術院賞受章[1]。1945年、日展委員に就任。練馬にアトリエを構え彫刻を中心に陶器・絵画など様々な分野の作品を発表する。1967年に日本芸術院会員となって以降、日本彫刻会理事長を始め複数の要職に就いた。1979年死去。享年77(満76歳没)。作品の多くは郷里の佐賀県立美術館に隣接する佐賀城公園に「古賀忠雄 彫刻の森」として常設展示されている。(写真:題名 じあい)



＜新コーナー＞四字熟語は奥が深い！⑧ 四字熟語とは、日本において漢字4文字で作られた熟語を指す用語。知れば知るほど面白い四字熟語。生活の中でも十分に使えます。

**泰然自若**(たいぜん-じじゃく) 落ち着いていてどんなことにも動じないさま。▽「泰然」は落ち着いて物事に動じないさま。「自若」は何に対してもあわてず、驚かず、落ち着いているさま。いつも落ち着いた目上の人に対して使うと似合う言葉です。